



**真綿**は繭を藁灰の上澄み液などのアルカリで煮て、綿状に引き伸ばしたもので、その起源は古代に遡ります。柔らかくて温かく、強くて長い纖維としてその良さを活かして利用されたりと、その利用方法は多岐にわたります。



真綿の足袋

片倉製糸の今井五介が使用した真綿の太糸ズボン下



2頭のお蚕さまがひとつの繭を作ったもの。2本の糸が絡んで、生糸づくりには不向きなので、真綿や玉糸の原料として利用されます。

# 玉繭 を活かす 知恵と技術 そして。

明治、大正、昭和と生糸の一大生産地として発展した岡谷には、日々数えきれない繭が集まり、繭は生糸に変わっていました。しかし、その中には生糸づくりには適しない繭も含まれていました。その選除繭の一つが玉繭です。糸のまち岡谷は、繭本来の利用としての生糸づくりと、選除繭の利用としての糸づくりの両輪で成り立ち、進んできたといつても過言ではありません。それら除かれた繭をも活かし、値千金に生まれ変わってきた先人たちの知恵と技術を顕彰します。



**玉糸**は玉繭から繰糸した生糸で、糸が絡み節やふくらみのある糸です。明治時代には、愛知県豊橋で小渕志ち氏により機械化が進み発展しました。紬の着物などにも利用されました。現在、節を活かした洋装生地や絹布紙（壁紙）などにも使われています。



豊橋の糸徳製糸場での玉糸繰糸



(株)宮坂製糸所  
上州式繰糸機での現在の玉糸繰糸



壁紙に絹布紙を使用したレストラン



交通の案内 電車の場合：JR中央本線岡谷駅下車 徒歩20分  
お車の場合：長野自動車道 岡谷I.Cから車で5分



会期 | 2021年4月22日(木)~7月11日(日)  
会場 | 岡谷蚕糸博物館 シルクファクトおかや  
開館時間 | 午前9時~午後5時 (製糸工場は9時~12時、13時~16時)  
休館日 | 水曜日(祝日の場合は開館)・祝日の翌日  
入館料 | 一般 510(410)円、中高生 310(210)円、小学生 160(110)円  
※( )内は10名以上の団体料金。諏訪地域6市町村の小中学生は無料。  
岡谷市内への高校通学者及び岡谷市内在住高校生は無料。

サンシハク

〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8 Tel.0266-23-3489

@silkfactokaya #silkfactokaya @silkfactokaya

<http://silkfact.jp/> シルクファクトおかや 検索

